

令和5年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和6年3月31日

学校法人福岡医療学院

福岡医療専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	5-16 就職等進路.....	24
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-17 中途退学への対応.....	26
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-18 学生相談.....	28
基準2 学校運営.....	5	5-19 学生生活.....	30
2-2 運営方針.....	6	5-20 保護者との連携.....	32
2-3 事業計画.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	33
2-4 運営組織.....	8	基準6 教育環境.....	35
2-5 人事・給与制度.....	9	6-22 施設・設備等.....	36
2-6 意思決定システム.....	10	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	37
2-7 情報システム.....	11	6-24 防災・安全管理.....	38
基準3 教育活動.....	12	基準7 学生の募集と受入れ.....	39
3-8 目標の設定.....	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	40
3-9 教育方法・評価等.....	14	7-26 入学選考.....	42
3-10 成績評価・単位認定等.....	15	7-27 学納金.....	43
3-11 資格・免許の取得の指導體制.....	16	基準8 財務.....	44
3-12 教員・教員組織.....	17	8-28 財務基盤.....	45
基準4 学修成果.....	18	8-29 予算・収支計画.....	46
4-13 就職率.....	19	8-30 監査.....	47
4-14 資格・免許の取得率.....	21	8-31 財務情報の公開.....	48
4-15 卒業生の社会的評価.....	22	基準9 法令等の遵守.....	49
基準5 学生支援.....	23	9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	50
		9-33 個人情報保護.....	51
		9-34 学校評価.....	52
		9-35 教育情報の公開.....	53

基準 10	社会貢献・地域貢献.....	54
10-36	社会貢献・地域貢献.....	55
10-37	ボランティア活動.....	56

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和5年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>○ 教育理念 親が子に残せる唯一の財産は教育である。</p> <p>○ 目標 教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、知識・技術・人間性を兼ね備えた人材を育成することを目標とする。</p>	<p>○ 教育活動 知識・技術・人間性を備えた医療人材を育成する。</p> <p>○ 実践的な職業教育 医療機関と連携を密にした実践的な職業教育を行い、国家試験全員合格を目指す。</p> <p>○ 「退学者0(ゼロ)」 「退学者0(ゼロ)」に向けた取り組みを、特に1年生を対象に全校を挙げて取り組む。</p>	<p>○ 教育活動・学修成果 【国家試験結果】 柔道整復師 100% (40名受験、40名合格) はり師 96.9% (32名受験、31名合格) きゅう師 97.0% (33名受験、32名合格) 理学療法士 98.2% (56名受験、55名合格) 看護師 95.7% (46名受験、44名合格) 診療放射線技師 82.5% (40名受験、33名合格)</p> <p>○ 実践的な職業教育 新型コロナ収束により、病院実習が制限なく実施されるようになった。学校行事や海外研修も再開し、教育活動は通常どおり実施されるようになった。</p> <p>○ 「退学者0(ゼロ)」 1年生の退学率はコロナ禍において上昇傾向にあったが、全校を挙げた取り組みにより大幅に低下した。</p>	<p>○ 教育活動・学修成果 3年余りのコロナ禍を経て入学してきた学生の質は、コロナ禍以前と違った特徴がある。特に、学生のデジタルテクノロジーに対する親和性は高いものがあるので、指導者側も教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)を積極的かつ効果的に活用することが求められている。 令和7年度より柔道整復科Ⅱ部(午後)を設置し、複数学科を同時受講できる体制にして、幅広いスキルを持ち合わせた質の高い医療従事者の育成を目指している。</p> <p>○ 実践的な職業教育 6学科体制を活かした多職種連携教育を推進していくことが課題である。来年度は、他学科と交流する活動を一層推進していく予定である。</p> <p>○ 「退学者0(ゼロ)」 退学率の改善は見られるものの、改善の余地が残されている。来年度も継続して、退学者を減らし、学生の満足度を向上させることが求められている。</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育理念、目的、育成人材像について明確に定めるとともに、その周知に努力している。関係機関等の協力のもと、業界のニーズに沿った育成人材像を構想し、教職員一丸となってその育成に取り組んでいる。</p> <p>今年は特に「退学者 0(ゼロ)」の取り組みを強化した。FD・SD 研修会のテーマにも取り上げ、各学科の好事例を共有し、教職員の意識向上に努めている。</p>	<p>「退学者 0(ゼロ)」の取り組みについては、特に新入生に対する取り組みを強化したことにより、一定の効果を上げた。</p>

最終更新日付

令和 6 年 1 月 18 日

記載責任者

滝沢 哲也

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	本校の教育理念・目的・育成人材像は教職員、学校関係者が共有すべき重要なものと考え、明確に定めている。	教育理念・目的・育成人材像は、学則、本校ホームページ及び学校案内パンフレット等に明確に公表している。	理念等は周知徹底されている。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学則 シラバス 3つのポリシー
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等を通じて得た業界等のニーズをカリキュラムの作成に反映させ、育成人材像を見直す。	各学科において教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等と協議して作成したカリキュラムに基づき指導および教育活動を進めている。	就職支援室を中心として、関連業界から求められる育成人材に関する情報収集を更に進めていく。	教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 学校関係者評価委員会議事録 シラバス 本校ホームページ 就職活動報告書
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	福岡医療専門学校における3つのポリシー「DP」「CP」「AP」を学科ごとに定め、特色のある職業実践教育に取り組む。 今年から「退学者0(ゼロ)」を目標に追加した。	3つのポリシーを踏まえた実践的な教育を実施するため、臨床経験豊富な教員を授業に配置している。 「退学者0(ゼロ)」に向けて1年生への対応を各科担任ベースで行っている。	「DC」「CP」「AP」の目標に沿った指導教育が出来るように教職員の更なるスキルアップが求められる。 今までの学生指導と「退学者0(ゼロ)」の取り組みで、教員の意識の転換が必要である。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学生要覧 3つのポリシー シラバス
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等より得た情報を常に把握し、時代に即した職業教育の充実向上に取り組む。 入学者の意識の変遷により今年から「退学者0(ゼロ)」を目標に追加した。	将来構想を実現する人材を養成するため、学内FD・SD研修、外部研修会等を活用して、教職員の対応力及び資質向上に努めている。 今年から導入している「退学者0(ゼロ)」の取り組みをFD・SD研修で各科の担任が発表し情報共有している。	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会や就職先からのニーズや意見を聴取する機会を増やしていくべきかを検討していく。 「退学者0(ゼロ)」の取り組みで、学生指導における教員間の認識、対応力が課題である。	事業計画書 学校案内パンフレット 本校ホームページ 教育課程編成委員会議事録 研修会参加報告書 学内FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育理念、目的、育成人材像について明確に定めるとともに、その周知に努力している。関連機関等の協力のもとに業界のニーズに沿った対応に努め、育成すべき人材像を構想し、教職員一丸となってその育成に取り組んでいる。</p> <p>今年度の目標である「退学者 0(ゼロ)」の取り組み、教員間の意識の転換を図るため、FD・SD 研修会を通じ情報共有している。</p>	<p>地域医療機関の要請を受け、令和 5 年度から歯科衛生科を設置し、1 期生を養成中である。</p> <p>令和 4 年 10 月より教育訓練給付金制度の柔道整復科の承認を受け、令和 5 年の入学生を受け入れている。</p> <p>学生の変遷に対応する為、「退学者 0(ゼロ)」の取り組みを行っている。</p>

最終更新日付	令和 6 年 1 月 15 日	記載責任者	大神 啓裕
--------	-----------------	-------	-------

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>運営方針は評議員会の意見を踏まえて理事会で決定する。運営方針に則り、毎週、開催される運営会議で運営状況を確認し、学科・分掌会議において具体的な方法が検討・実施される。</p> <p>毎月行われる教職員等には、全教職員が参加して、理事長より運営方針について、直接周知されている。</p> <p>今年度は、特に「退学者 0(ゼロ)」の取り組みを学校全体で実施した。各学科や各分掌における取り組みに併せて、FD・SD 研修を開催して、各学科で行われている情報を教職員全員が共有することで、成果をあげることができた。</p> <p>教職員の勤務時間の短縮、自家用車の利用の促進、男性職員の育児休暇取得など、働きやすい環境づくりを昨年度より継続している。</p>	<p>校内ネットワークの充実を図り、教職員間の情報共有を積極的に行うとともに、電子帳簿法改正等に対するデジタル化への対応を進めている。</p>

最終更新日付	令和 6 年 1 月 24 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	-----------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	運営方針は評議員会の意見を踏まえて理事会で決定する。教職員会議、学科会議において教職員等に周知徹底する。	少子高齢化を背景とした社会環境において、学生募集活動の取組強化を行っている。また、「退学者0(ゼロ)」に向け学生支援に注力し、学生満足度の底上げを図る。令和5年4月に歯科衛生科を新設、令和6年4月には診療放射線科の入学定員変更を行った。(50名から80名への増員変更)	引き続き少子化を背景とした社会環境において、学生募集活動の取組強化が課題である。特に卒業生や就職・実習先等との情報交換を強化し、学生募集に繋がるように努める。	理事会議事録 評議員会議事録 学校会議規程 運営会議議事録 教職員会議議事録 事業計画書 学科会議議事録 学生募集要項 歯科衛生士養成所指定申請書 診療放射線技師養成所定員変更承認申請書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
運営方針は評議員会の意見を踏まえて、理事会で決定している。	令和6年4月より診療放射線科の入学定員変更が承認された。(50名から80名への増員変更)

最終更新日付	令和6年1月15日	記載責任者	小儀 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	事業計画を定め、適切な学校運営に努める方針である。 学科及び校務分掌ごとに年間計画を立て業務を遂行する。	毎年度、事業計画や予算の原案を校務分掌ごとに作成し、運営会議で取りまとめ、理事会及び評議員会において承認を受けている。 この事業計画書をもとに学校運営を行っている。	コロナ禍を経て、業務改善の見直しが引き続き課題である。ペーパーレス、社内ネットワークの整備を行い、業務効率化に努め、事業計画の遂行を図る。	事業計画書 理事会議事録 評議員会議事録 運営委員会議事録 学科会議議事録 課内会議議事録 組織図 教職員会議議事録 新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル 歯科衛生士養成所指定申請書 専門実践職業教育訓練申請書 診療放射線技師養成所定員変更承認申請書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、事業計画を作成し理事会及び評議員会にて承認を得ている。その事業計画の執行状況については、理事会及び評議員会によって検証され、次年度の事業計画に反映されている。	令和5年4月より歯科衛生科が新設し、柔道整復科が専門実践職業教育訓練の対象講座となった。

最終更新日付	令和6年1月15日	記載責任者	小儀 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	寄附行為の規定に基づき、理事会と評議員会を開催して適切な運営を行う。	寄附行為の規定に基づき、理事会と評議員会を定期的に開催し、組織的運営の方向性の確認とともに、透明性の確保に努めている。今年度の重点目標であった「退学者0(ゼロ)」の取り組みについて、理事会と評議員会の助言等も踏まえ進められた。	コロナ禍の収束に伴い、教育環境及び社会環境等が過去3年間と比較して、様々な変化がみられる。このような中、理事及び評議員から俯瞰的な見地での提言や助言を取り入れ、教育内容を充実させる必要がある。	法人寄附行為 理事・監事・評議員名簿 理事会議事録 評議員会議事録 組織図 学内諸規程 教職員会議議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	適切な学校運営に取り組むため、組織及び規程を整備する。	学校運営において教職員の業務能力の向上のため、学内FD・SD及び外部研修を行った。学校運営にあたっては、今年度学校としての重点目標である「退学者0(ゼロ)」の取り組みについてこれらの研修を活用し、各学科が情報を共有することで様々な取り組みがなされた。	学内FD・SD及び外部研修については今後も継続し、教職員が研鑽できる環境づくりをしていく必要がある。「退学者0(ゼロ)」の取り組みについても今年度の実績を踏まえ分析を行い、引き続き検討、取り組みをしていく必要がある。	学校会議規程 学校業務規程 組織図 法人寄附行為 FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>寄附行為を遵守して法人運営を行う。運営のために必要な学内諸規程を整備し、組織的な運営を行う。感染症対策において組織的な運営体制が整い、適切な対応が行われた。</p> <p>FD・SD及び外部研修などで取り上げられた「退学者0(ゼロ)」の取り組みについて、研修を通じて各学科が情報を共有することで、様々な取り組みがなされた。</p>	<p>理事及び評議員からの提案、助言等を基に、コロナ禍収束後の教育環境や社会環境の変化に対応した教育内容を充実させる必要がある。FD・SD及び外部研修については今後も継続していく。</p>

最終更新日付

令和6年1月19日

記載責任者

中村 秀樹

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	事業計画に基づき必要な人材を確保する。勤務規程、給与規程を定めて、必要な人材の確保に努める。	人事は学校運営の状況を加味し、必要な人材を確保し、適材適所に配置している。 勤務規程および給与規程に基づき賃金を定めている。また、働き方改革の1つである「産後パパ育休」制度を積極的に活用する教員もいた。	教職員の事情に応じた多様な働き方を選択できる環境づくりを進めている。また、人事考課制度の導入等の人事に関する諸制度の整備が求められる。	勤務規程 給与規程 職員採用規程 教職員名簿 学会参加規程 本校ホームページ 新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職員採用規程に基づき、学校運営の状況を加味し人員の確保や配置を行っている。また、育児休暇やキャリアアップのための支援を行っている。	新型コロナウイルス感染対策のガイドラインに従い、教職員に対する感染対策の指導、教職員の勤務時間短縮の継続を行った。また、働き方改革の1つである「産後パパ育休」制度を積極的に活用する教員もいた。

最終更新日付	令和6年1月15日	記載責任者	小儀 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校会議規程を整備して、学校運営に必要な意思決定システムを定める。	<p>学校会議規程等に基づき、各会議が開催される。決定した内容を議事録にまとめ、教職員会議等で教職員に伝達している。サイボウズを活用することにより、議事録や決定事項等の情報を迅速に共有している。</p> <p>他科の議事録を共有することで、学科を超えた情報共有を実施し業務の効率化を図っている。</p>	サイボウズによる情報共有により、共有される情報過多の傾向がある。報告書等の記載内容や書式、項目等について統一させ、情報を効果的に整理しなければならない。	<p>寄附行為 学校会議規程 理事会議事録 運営会議議事録 教職員会議議事録 各学科会議議事録 総務課会議議事録 国試課会議議事録</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校会議規程等に基づき、各会議が開催される。決定した内容を議事録にまとめ、教職員会議等で教職員に伝達している。サイボウズを活用することにより、議事録や決定事項等の情報を迅速に共有している。	サイボウズによる情報共有により、共有される情報過多の傾向がある。報告書等の記載内容や書式、項目等について統一させ、情報を効果的に整理しなければならない。

最終更新日付	令和6年1月11日	記載責任者	山口 祥子
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率化を図っているか	業務の効率化を図るため、学内の情報システムを常に円滑に稼働させる。 情報システムにおいて利用されている情報資産に対し常に高いセキュリティを維持する。	学内の情報システムは利用部門ごとに分割されており、情報資産への安全な利用が構築されている。 無線通信と有線 LAN によるインターネットの利用が行える環境を導入している。 ICT の学習支援ツールを導入している。	ICT を活用した授業が行える環境を整備していく。 情報システムの一部サービスのクラウド化を進める。	パソコン配置図 無線 AP 情報一覧 コンピューター使用ルール ウィルス感染等の防止について 個人情報保護規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務の効率化を図るためにネットワーク環境を整備している。情報資源はクライアントサーバシステムで運用している。情報システムの運用においては、パソコン等の使用規程と情報資産に対するアクセス権限を明確に設定しセキュリティ対策を実施している。	ICT 環境の整備と教職員の ICT 活用指導力の向上を進める。

最終更新日付	令和 6 年 1 月 17 日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------------	-------	--------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成・実施方針、教育到達レベル、進級・卒業要件は、理念・目的・育成人材像に沿った卒業認定の方針に基づいて定めている。</p> <p>教育課程は、教育目的に沿って3つの分野（基礎・専門基礎・専門）に分類し、体系的に編成している。そして、外部委員の参画する教育課程編成委員会や専任教員を中心とした次年度教育内容会議を通して絶えず見直している。キャリア教育については、学外と連携した臨床実習等を含む体系的な教育課程を通じて行っている。また、授業評価アンケートやFD・SD研修会にて教育能力の向上に努めている。</p> <p>成績評価は、学則及び履修要項の定めた基準に則り、判定会議にて単位認定・進級・卒業を判定している。技術等の発表における成果は、実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で成績を評価している。</p> <p>資格に関しては、医療専門課程の修了者に国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与している。新学科についても同様となるよう所轄官署に申請する。資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っており、国家試験出題基準の変更にも対応する。</p> <p>教員は、専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たしており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。そして、学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。</p>	<p>教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、行政制度の改正やテクノロジーの進歩等の社会情勢の変化に対応して不断の見直しをしている。</p> <p>定期的にカリキュラム改正を実施し、社会の求めに応じた医療人教育をしている。通常授業の他に、複数学科による多職種連携授業、学年間交流授業、業界役員や海外で活躍する医療人による特別講義等を実施している。また、教育アプリの活用も進めている。授業評価アンケートはGoogle Formを使用し、学生・教員双方の利便性を図っている。</p> <p>学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現している。今後、災害対策として電子データのクラウドバックアップを導入する予定である。</p> <p>国家資格以外にも、職業に関連した民間資格（運動指導、美容、放射線取扱 他）のセミナー等を開催して取得機会を提供している。さらに、国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。</p> <p>教員が、学科や分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることで幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。</p>

最終更新日付	令和6年2月9日	記載責任者	藤瀬 正
--------	----------	-------	------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念等(教育理念、教育目的、育成人材像)に沿って、卒業認定の方針に基づく教育課程の編成・実施方針を定める。	外部の意見や社会のニーズを取り入れながら、理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めている。	現在定めている教育課程の編成・実施方針について、改良の必要性を検討する。	学則 3つのポリシー シラバス 学校パンフレット
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科ごとに定めた卒業認定の方針に基づき、教育到達レベルと進級・卒業要件を定める。	各学科、各学年に対し教育到達レベルを示し、進級・卒業要件を定めている。	令和5年度新設の歯科衛生科の教育課程と教育到達レベルが適正かを点検する。	学則 履修要項 シラバス

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理念等に沿って卒業認定の方針に基づき、教育課程の編成・実施方針、教育到達レベル及び進級・卒業要件を定めている。 令和5年度新設学科の教育課程と教育到達レベルが適正かを点検する。	教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、行政制度の改正やテクノロジーの進歩等の社会情勢の変化に対応して不断の見直しをしている。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的に沿った養成人材像や卒業認定の方針を示し、その達成に向けた教育課程を体系的に編成する。	教育目的に沿って、3つの分野（基礎、専門基礎、専門）に分類した体系的な教育課程を編成している。	令和5年度新設の歯科衛生科のカリキュラムが教育目的に沿っていることを点検する。	学則 3つのポリシー シラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	教育課程編成委員会を開催し、外部の意見を反映する。委員は本校及び関連業界の役職者や有識者で構成する。	外部委員の参画する教育課程編成委員会や専任教員中心の次年度教育内容会議で教育課程を絶えず見直している。	歯科衛生科についても、教育課程編成委員会の開催に向けて準備を進める。	学校会議規程 教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 職業実践専門課程の基本情報
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会的・職業的自立に向けて、教育課程のなかで職業教育を行い、職業観を涵養する。	学外と連携した臨床実習等を含む体系的な教育課程を通じて職業観を育成している。	カリキュラム改正等に際し、キャリア教育に適した教育課程を組む必要がある。	学則 シラバス 職業実践専門課程の基本情報
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生や教員による授業評価を実施し、教育能力の向上を図る。	学生の授業評価アンケートやFD・SD研修会を実施し、教育能力の向上に努めている。	ヒアリングを行い、アンケート内容の改良を検討する。	授業評価アンケート結果 FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目的に沿って、3つの分野（基礎・専門基礎・専門）に分類した体系的な教育課程を編成しており、外部委員の参画する教育課程編成委員会や専任教員を中心とした次年度教育内容会議を通して教育課程を絶えず見直している。</p> <p>臨床実習等を含む体系的な教育課程にてキャリア教育を実施している。授業評価アンケートやFD・SD研修会にて教育能力の向上に努めている。</p>	<p>定期的にカリキュラム改正を実施し、社会の求めに応じた医療人教育をしている。通常授業の他に、複数学科による多職種連携授業、学年間交流授業、業界役員や海外で活躍する医療人による特別講義等を実施している。</p> <p>また、教育アプリの活用も進めている。授業評価アンケートはGoogle Formを使用し、学生・教員双方の利便性を図っている。</p>

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	学則及び履修要項で定めた成績評価・修了認定基準に従い、進級・卒業判定を行う。	判定会議を開催して定めた基準に則り、単位認定・進級・卒業・既修得単位認定を判定している。	新設学科についても判定会議にて、単位認定・進級・卒業・既修得単位認定を判定する。	学則 履修要項 進級判定会議議事録 卒業判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	実技や臨床実習を体系的に教育し、その修得度や成果を成績に反映する。	実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で成績の評価をしている。	実習の到達目標に則した評価項目になっているかを毎年見直す必要がある。	実技審査結果 実習評価表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
判定会議を開催して定めた基準に則り、単位認定・進級・卒業を判定している。新設学科についても同様に遂行する。 実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で成績を評価している。	学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現している。今後、災害対策として電子データのクラウドバックアップを導入する予定である。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	各学科の医療専門課程を修了した者には、国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与する。	課程修了者に、柔道整復師、はり師きゅう師、理学療法士、診療放射線技師及び看護師の国家試験受験資格及び(高度)専門士の称号を与えている。	新設の歯科衛生科も専門士の称号を授与できるように所轄官公庁への申請の準備を進める。	学則 学校パンフレット 学生募集要項
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	国家試験対策課を設置し、資格取得のための指導体制を構築する。	科目担当、クラス担任及び国家試験対策課の連携により、きめ細やかな指導をしている。	令和5年度から変更される理学療法士の国家試験出題基準に対応する。	学校パンフレット

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
医療専門課程の修了者には国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与している。新学科についても同様となるよう所轄官署に申請する。 資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っており、国家試験出題基準の変更にも対応する。	国家資格以外にも、職業に関連した民間資格(運動指導、美容、放射線取扱 他)のセミナー等を開催して取得機会を提供している。 国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。

最終更新日付	令和6年1月20日	記載責任者	坂主 充史
--------	-----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	文部科学省令及び厚生労働省令に準拠した教員を確保する。	専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たす教員を配置している。	令和5年度に新設した歯科衛生科は、2年次、3年次から授業が始まる教員と連絡を取りながらその確保に努める。	文部科学省令 厚生労働省令 学校基本調査票
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の経験等に応じて知識や技術の研鑽が積めるように支援する。	指導力・研究力・臨床力向上のため、研修会参加の助成、学位取得の推進、FD・SD研修会や臨床研修日を設けている。	首都圏等での研修会はオンラインも活用し参加の機会を増やす。	学会参加規程 研修等の実績及び計画 FD・SD研修会抄録
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員組織における業務内容や責任体制を明確にし、組織的に活動する。	学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有している。	教員間で教育アプリケーション等を活用し、情報共有のスマート化を図る。	学科担任表 学科会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たす教員を配置しており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。</p> <p>学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。</p>	<p>教員が、学科や校務分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることで幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。</p>

最終更新日付	令和6年1月20日	記載責任者	坂主 充史
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更(5月)となり、対面授業をスムーズに実施した。また、学外の臨床実習も実習先と連携して実習プログラムを遂行した。学修成果については、これまでのコロナ禍での影響も懸念されることから、高学年、低学年の学力を把握するため、学習範囲に応じて国家試験形式の試験、実力試験、模擬試験等を計画的に実施した。その結果をもとに到達度、理解度を教員で共有し、授業や実習、補習等を工夫して学生の学習意欲や学力の向上を図った。一方で、今年度は1年次での早期退学者ゼロを目指し、FD・SD研修でも教職員全体で意見交換を行い、学生の学習面だけでなく将来の夢の実現のためのキャリア教育の工夫や精神面のサポートにも注力し、1年次の退学者は激減した。最上級生においては、国家試験の難易度上昇も考慮して、成績が基準に満たない学生に対し講義形式による補習だけでなくグループワーク、個別指導を取り入れ、細やかな学習指導を行った。各学科の国家試験の合格率は全国平均より高く、82.5%～100%を達成した。</p> <p>卒業生の動向や社会的評価は、校友会(本校卒業生の団体)、卒業生が勤務する実習先への訪問、研修会への参加等で把握しているが、今年度は、本校の創立25周年記念事業の中で、交友会の卒業生と教職員や在校生との交流の場を設け、出席した多数の卒業生の現況を聞き取り、卒業生の社会的評価について詳細に把握することができた。</p> <p>就職率の向上や就職等進路に関する支援体制に関して、全体の求人倍率は62.7倍となり、全学科において卒業生実数を上回っている。各学科に専任の就職支援担当教員を配置し、担任との密な連携のもとで就職支援を展開し、就職セミナーにおいて、昨年度の成功事例や効果的な就職活動の手法、履歴書の作成方法などを詳細に説明し、学生が迅速に就職活動に取り組めるよう支援を強化した。結果、前年同様に5学科で就職率99.1%を達成した。全体的に就職活動が早期化する中、看護師求人活動は2年次の終盤に始まる傾向がある。臨地実習を行っている外部医療機関の実習指導者と密接に連携し、今後の人材育成や求人動向に対応できるよう情報収集に努める。</p>	<p>これまで1年次で早期退学者が一定程度みられたが、今年度は「退学者0(ゼロ)」を目指して、FD・SD研修会の中で退学に至る動向を分析・検討し、教員全体で取り組み、良い成果が得られた。</p> <p>キャリア教育に関連し、本校卒業生で、海外(中南米)で活躍する鍼灸師を招いて特別講演を企画した。演者の実体験を鍼灸科全学年の学生が拝聴し、質疑応答も活発に行われるなど学生のキャリア形成に資する有意義な講演であった。</p>

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13 就職率の向上が図られているか	<p>学生一人ひとりの個別ニーズに焦点を当て、自己実現の機会を最大限に引き出すため、医療人としての第一歩となるキャリア形成を総合的に支援している。</p> <p>全学科で引き続き、外部医療機関での臨床実習を実施しており、その中で臨床現場の第一線で活躍する実習指導者と密接に連携し、幅広い情報交換を通じて今後の人材育成や求人動向に対応できるような情報を収集している。</p> <p>これにより、より効果的な就職支援を提供し、学生たちが充実した医療人生を歩むための基盤を築いていく。</p>	<p>各学科に専任の就職支援担当教員を配置し、密な担任連携のもとで就職支援を展開し、前年同様に5学科で就職率99.1%である。</p> <p>今年度は、4～5月に開催された就職セミナーにおいて、昨年度の成功事例や効果的な就職活動の手法、履歴書の作成方法などを詳細に説明し、学生たちが迅速に就職活動に取り組めるよう支援を強化した。</p> <p>現在は、Zoomなどを活用した遠隔（オンライン）企業説明会も積極的となってきた。更に、一部の企業では遠隔面接が実施されており、これに対応するため、遠隔面接におけるマナーやテクニックについても面接練習プログラムに組み込み、学生たちが遠隔環境での面接に対応できるようサポートしている。</p>	<p>昨年度同様、学生が早期から就職活動に着手できるよう、計画的なセミナーなどを実施した。これにより、一部の学生には一定の成果が見られつつも、国家試験の準備との並行作業が課題として浮かび上がっている。</p> <p>これらの取り組みの中で、学生がモチベーションと危機感を保ちながら、キャリア形成に取り組むためのプログラムの改善が不可欠であると認識している。</p> <p>セミナーや関連イベントでは、より効果的な方法や学生が主体的に情報を収集しやすい形式を導入し、学生たちが積極的かつ自己主導的に進路を検討できる環境を整えることが必要と思われる。</p> <p>今後は、就職活動時に使用される求人票やパンフレットなどの資料を、学生がより利便性良く閲覧できるように改善・活用していくことを検討する。</p>	<p>学校案内パンフレット 求人情報閲覧用資料 就職先・求人先訪問データ 卒業生の就職者データ(数、率) 就職活動報告書 就職支援セミナー報告書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在、全体の求人倍率は62.7倍（令和6年2月29日現在）となり、全学科において卒業生実数を上回っている。これは就職支援室を中心とした積極的な活動の成果を示しており、着実な実績を確立している。</p> <p>今後は、学生たちがより充実した就職活動を進められるような計画的な支援を展開し、早期から気持ちに余裕をもって積極的に就職活動に取り組める環境を整備していく方針である。この取り組みにより、学生たちが自らのキャリアを構築し、豊かな未来を切り拓くための力強いサポートを提供していく。</p>	<p>次年度以降も各学科とも学外実習を計画しているため、実習先との密接な連携と就職率向上に向けて取り組んでいく。</p>

最終更新日付	令和6年2月29日	記載責任者	坂口 文宏
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>国家資格取得に向けた取組みを入学年次から実施する。</p> <p>最上級生に対しては、模試を定期的に行い、成績が基準に満たない学生に対して補習を実施する。</p>	<p>低学年については、定期的に国家試験に準じた形式の試験を行い、国家試験の形式や出題範囲、傾向等を把握させ最上級生に進級した際に必要な学習内容を意識付けするとともに、学習意欲の向上を図る。</p> <p>特に、最上級生になる前の学年においては、1月から本格的に国家試験対策課題と模擬試験を行い、早くからの学習への取りかかりを促す。</p> <p>最上級生に対しては、定期的に行う模試により理解度を評価して補習内容・方法等を修正し、より理解度を深める。学科によっては、学習アプリの利用を開始する。</p>	<p>国家試験の出題範囲の広がり、より臨床に即した出題、現在の社会情勢に照らし合わせた出題等、年々難易度が上がっている。</p> <p>最上級生については講義形式による全体指導で理解させるには限界があり、個々人に対するきめ細やかな指導が必要である。グループワークや個別指導等を採用し、難易度の上昇に対応する必要がある。また、国家試験が近づくにつれ身体的、精神的にも疲労が見られることからその点についても細やかなフォローが必要である。</p>	<p>学校案内パンフレット</p> <p>国家試験合格者状況表</p> <p>本校ホームページ</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家試験の難易度の上昇に適応するため、従来の講義形式による補習だけでなく、グループワーク、個別指導等を採用し個々人に対するきめ細やかな指導を行う。</p>	<p>学科によっては、学習アプリ（モノグサ）を利用し、記憶の定着を図った。</p>

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の社会的評価を把握するには、卒業生とのつながりを強固に保つ必要がある。そのために校友会を組織し、卒業生の現況と社会的評価を把握する。	卒業生と在校生、卒業生間、卒業生と教職員との交流を図る事と、現況の把握と社会的評価について聞き取り、フォローアップを加える目的で、本校の創立 25 周年記念パーティーの案内を全卒業生に対し送付して、実施した。	卒業生の活動把握の為、校友会参加者等の情報を参考にしながら現況把握に努めていく。 卒業生が勤務している臨床(臨地)実習先への教員による訪問や、研修会への参加により、卒業生の動向と社会的評価を聴取する。	校友会名簿 学校案内パンフレット 本校ホームページ 校友会案内

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生の社会的評価を把握するには、卒業生の現況を捉える必要があるが、校友会による活動だけでは困難である。各教員が臨床(臨地)実習先への訪問や勉強会への参加により、卒業生の動向を聴取する。	本校の創立 25 周年記念パーティーに全卒業生に対し案内を送り実施した。313 名の卒業生の参加があり、卒業生同士および卒業生と教職員の交流することができた。

最終更新日付	令和 6 年 1 月 19 日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------------	-------	-------

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職について、全体の求人倍率は61.7倍（令和6年1月15日現在）となり、全学科の卒業生実数を上回っている。今後も就職支援室を中心に実習先との密接な連携と就職率向上に向けて取り組む。また、就職活動相談や模擬面接など、具体的かつ効果的なプログラムを通じて学生たちのニーズに応じていく。</p> <p>中途退学への対応として、今年度は「退学者0（ゼロ）」を目標に全教職員で取り組んできた結果、退学率が低減した。今後、資格取得に向けた職業観の形成や学習面のサポートだけでなく、有意義な学生生活を送れるような学生満足度の向上に努め、退学率の低減を図っていく。</p> <p>学生相談については精神的な問題やLGBT等相談の対応が今後の課題である。</p> <p>学生生活については、公的な奨学金及び高等教育の就学支援新制度を中心に経済的な支援を行っている。貸与奨学金は全学生の約60%が利用し、高等教育の就学支援制度は約20%が利用している。今後も円滑に支援ができるよう、担当者だけでなく教職員全体で対応できるような体制を目標とする。</p> <p>保護者との連携では、学生の学習状況や学校生活の状況を保護者に現状を報告・確認しながら、問題発生時の早期解決に取り組んでいる。今年度はコロナ感染症も収束したことで、より密に保護者と連携を図ることが可能となった。</p> <p>卒業生との交流について、今年度は創立25周年記念パーティーを開催し、卒業生と教員・在校生の交流機会があった。今後、活躍する卒業生の講演等を実施できるよう計画する。</p>	<p>全学生の約60%が奨学金を利用している。 全学生の約20%が高等教育の就学支援新制度を利用している。</p>

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<p>昨年度同様、学生支援課内に配置された就職支援室を通じて、クラス担任と緊密な協力と連携を築きながら、学生の就職支援と希望進路への効果的なサポートを展開している。</p> <p>早期の就職活動に対応するため、年度初めに実施したセミナーでは、就職活動が円滑に進むようにサポートしている。今後も、適切な情報提供やキャリア形成に向けたプログラムの充実を通じて、学生が自分の進路を明確にし、主体的に就職活動に臨めるよう支援を続ける。</p>	<p>今年も学生が円滑に就職活動を進めるため、早期から学生支援室を開放し、求人票の閲覧などの就職情報提供を積極的に行っている。先輩たちの実体験に基づいた就職体験記を整備し、学生がいつでも参照できるようにしている。</p> <p>履歴書の記載事項についても、就職支援室メンバーが検討し、本校独自の履歴書を作成している。その見本を学生支援室に設置し、学生が必要なときに参考にできるような環境を整備した。</p> <p>また、企業との連携においても、対面やオンラインの活用を進め、積極的な情報交換を推進している。</p>	<p>昨年度同様、全体的に就職活動が早期化する中、学科ごとに就職活動の開始時期に差が出てきている。これに対応するため、将来的には学科に応じた柔軟で効果的な支援策の構築が求められる。</p> <p>特に看護師求人においては2年次の終盤に活動が始まる傾向があるため、それに合わせた適切なサポートや情報提供がより早い段階で必要とされている。</p> <p>同様に、就職セミナーについても、学生が余裕を持って円滑に活動を進めるために、より効果的で適切な内容にブラッシュアップしていくことが課題となる。</p> <p>これにより、学生たちが自己実現に向けてスムーズな進路を構築できるよう、支援体制を向上させることを目指す。</p>	<p>組織図 学校案内パンフレット 就職試験報告書 就職試験内容記録 就職説明会案内 就職支援セミナー報告書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 100%を目標としている。就職支援室の役割として、担任との連携を深め、学生が充実したキャリア形成を築けるよう、継続的な支援を展開する。就職活動相談や模擬面接など、具体的かつ効果的なプログラムを通じて学生たちのニーズに応えていく。</p> <p>来年度に向けては、就職セミナーの内容を一層ブラッシュアップし、学生たちが早期から円滑に就職活動を進めるためのサポートを一層強化する。変化する時代に柔軟かつ適切に対応し、学生たちの進路選択において不安なく自己実現を果たせるよう、更なる取り組みを継続していく。</p>	<p>令和6年3月卒業生に対する就職求人倍率は、理学療法科 46.7 倍、診療放射線科 10.2 倍、看護科 151.6 倍、柔道整復科 50.2 倍、鍼灸科 36.6 倍であった。（令和6年1月15日現在）</p>

最終更新日付	令和6年1月11日	記載責任者	坂口 文宏
--------	-----------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>学生が抱える様々な問題を早期に発見し、解決できるように担任を複数名配置している。また、学校単位では学生支援室を設置し、学生が安心して学生生活を送れるよう努めている。</p> <p>特に今年度は学校全体の目標として「退学者0(ゼロ)」を掲げ取り組んでいる。</p> <p>経済的理由による退学者減少にも国の支援策を最大限活用し取り組んでいる。</p>	<p>「退学者0(ゼロ)」を教職員全員が意識し、学生が有意義な学校生活を送れるよう取り組んでいる。特に1年生に対してはスムーズに学習やクラスに馴染めるよう午後の時間外に勉強会や屋上グラウンドなどを使ったレクリエーションを行った。各教員も授業内容を見直し、より取り組みやすい内容に改善を図った。また、各学科での取り組みを学内のSD研修会で報告し全教職員で共有している。</p> <p>学習面では、試験毎に成績が伸び悩んでいる学生に対して保護者も含めた面談を行い、状況を共有している。</p> <p>経済面による退学者数低減のため、高等教育の修学支援新制度等の奨学金制度を活用している。</p> <p>いずれの問題も各学科副校長を含めた週1回の学科内会議や運営会議で報告し、学校全体で問題に対する解決策を検討し、退学者数低減に努めている。</p>	<p>1学期の1年生の退学率、また2学期末までの学校全体の退学率は前年比よりも減少した。今後も継続して退学率の低減に向けて学校全体で取り組んでいく。</p> <p>入学前は、入学予定者登校日を設け、職業意識の確認と在校生も交えた同一学科内での交流を図っていく。</p> <p>入学後は、慣れない医療系の学問に興味を持ち、早く馴染めるよう、各教員が常に意識していくことが必要である。</p> <p>学内セミナーの充実や学科の垣根を取り払った合同授業、卒業生を招いた特別講義なども積極的に行い、職業観を深めていく。</p> <p>学習面や生活面、経済的なサポートは、引き続き担任、担当教員で適切に対応していく。</p>	<p>組織図 学生個人連絡票 CampusMagic FD・SD研修会抄録 学生面談記録 各科内会議議事録 教職員会議議事録 学校ホームページ・SNS</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度は学校全体で「退学者0（ゼロ）」を目標に、全教職員で取り組んできた結果、退学者数を低減することができた。教職員が常に最善を検討し、改善を図りながら退学者数低減に対する意識をもって取り組んでいく。資格取得に向けた職業観の形成や学習面のサポートだけでなく、有意義な学生生活を送れるようなイベントを行うなど、学生満足度の向上に努め、退学率の低減を図っていきたい。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	令和6年1月11日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<p>学生が抱える問題・悩みは学内・学外にかかわらず、多種多様である。何か問題が生じた場合には、すぐに報告を行い、教職員全員で対策を考え、迅速に対応する。</p> <p>資格取得に向け、安心して有意義な学生生活が送れるよう学習面、経済面、健康面をサポートしていく。</p>	<p>担任や授業担当者が学生とのコミュニケーションを図り、問題を抱えた学生の早期発見に努めている。</p> <p>何か問題があれば、すぐに報告するように教職員だけでなく、学生にも徹底している。</p> <p>学科内で解決できない場合には、学校全体で検討ができるような体制を整えている。</p> <p>学生支援室を設置し、学習面や経済的な問題、就職等の相談に担当職員が対応している。</p> <p>附属臨床施設（クリニック、整骨院、鍼灸院）にて学生の健康面もサポートしている。</p>	<p>学生の精神的な問題や今後増加すると考えられるLGBTに対する支援体制は、専門的なアドバイザーがおらず、対応できる教職員の養成が必要である。また、的確なアドバイスができるよう、専門的な知識を持った担当者の育成やスキルの向上を種々の研修会等の参加によって培っていく。</p> <p>奨学金利用者の割合は半数以上を占めている。国の経済的な修学支援策も次年度より更なる拡大が行われるため、研修会参加や教職員の理解を深めるための学内勉強会を実施していく。</p>	<p>組織図 課内会議議事録 学生支援室日誌 学生支援室利用簿 学生面談記録 学生要覧</p>
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<p>相談対応の教職員を配置し、受け入れ時や在学中の支援体制を整備する。</p>	<p>今年度は留学生の在籍なし。過去の実績は韓国からの留学生が1名。令和5年3月に診療放射線科を卒業し、国家試験に合格した。</p>	<p>今後、留学生の受け入れ、在学中のサポートが円滑にできるよう体制を整えていく。</p>	<p>中長期在留者の受入れに関する届出 留学生調査票</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度は担任を中心に学生対応を密に行った結果、大きな問題はなかった。</p> <p>精神的な問題や LGBT に対する相談に対応できる教職員の養成が今後の課題である。</p> <p>経済的な相談は奨学金の利用を中心に担任と奨学金担当で情報を共有しながら対応しているが、奨学金利用者の割合も高いため、制度の理解を教職員に深めていく。</p> <p>今後は、多様化する学生からの相談に対し、迅速で的確な対応ができるよう担当者の育成が課題である。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	令和 6 年 1 月 11 日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<p>学生が抱える問題・悩みは学内・学外にかかわらず、多種多様である。教職員全員で考え、対応する。</p> <p>資格取得に向け、安心して有意義な学生生活を送れるようサポートしていく。</p>	<p>経済的支援として日本学生支援機構の奨学金及び高等教育の修学支援新制度を整備している。</p> <p>現在、給付奨学金・貸与奨学金の利用者が増えている状況である。そのため説明会や書類のチェックが煩雑となっており、業務量も増えている。より簡潔な分かりやすい説明、不備のない書類のチェック体制の構築に取り組んでいる。</p>	<p>各科奨学金担当者を決め、その担当で1次チェック、その後責任者で2次チェックを実施している。</p> <p>また、学生説明会に関しても動画を作成し、学生がいつでも見ることができる環境を整えた。</p>	<p>本校ホームページ 日本学生支援機構ホームページ 文部科学省ホームページ 厚生労働省ホームページ 福岡県庁ホームページ</p>
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<p>定期健康診断を全学生に対し年1回実施する。</p> <p>体調不良や怪我等があれば併設のクリニック・整骨院・鍼灸院にて、すぐに受診ができることを学生に周知徹底していく。</p> <p>継続して感染症対策を徹底する。</p>	<p>年度初めに全学生を対象に行う健康診断は本年度も実施した。</p> <p>本年度も、感染対策のため登校時の手洗い、換気等を継続して実施している。また、感染した場合は担任と密な連絡が取ることができるよう対応している。</p> <p>欠席情報に対しては担任が学生に状況を確認し、健康管理をしている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと変更になり、本校でもそれに伴って感染マニュアルを変更した。</p> <p>コロナ禍卒業の学生が中心となり、学生生活を送る中で心の病となる学生も少なくない。担任を中心に心のケアを図りながら対応している。</p>	<p>組織図 健康管理規程 見舞金申請書 学生要覧 健康チェックシート</p>

<p>5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか</p>	<p>遠隔地から就学する学生、保護者が安心して不安なく学生生活を送れるよう、また学習にも取組めるような環境を整備する。</p>	<p>提携寮を4か所(男子寮2か所、女子寮1か所、共同寮1か所)指定している。 寮母常駐・食事付き等、学生と保護者が共に安心できる環境を整えている。オープンキャンパス時にも積極的に寮案内を実施し、遠方からの就学に対する不安の低減に努めている。 就学後も必要に応じ寮の管理会社と連携を図り学生の生活支援体制を構築している。</p>	<p>入学時に不安定な心理状況の学生や朝起きることができない学生に対しても寮母と連携を取り対応している。 引き続き、寮の管理会社と連携を図りながら、生活環境を安定させ、学習に専念できる環境づくりに取り組んでいく。</p>	<p>本校ホームページ 学校パンフレット 学生寮パンフット</p>
<p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p>	<p>学生生活の充実のために課外活動に関する体制づくりや、将来への職業理解に繋がるような情報提供を行い支援する。</p>	<p>本年度は専門学校体育大会が再開し、多くの種目にエントリーした。 また、世界水泳福岡2023、福岡マラソン2023のボランティア活動も実施され、積極的に学生が参加している状況にある。 次年度も積極的に課外活動に対し支援していきたい。</p>	<p>今年度より多くの部活動が再開し、学生間の交流が深まり、大会にも参加できた。感染対策には十分注意をしながら、今後もより活動の幅を広げていき学生支援を実施していく。 より多くの学生に参加してもらう主旨があるため、広く告知、募集を継続して実施していく。</p>	<p>本校ホームページ 学校パンフレット 学生要覧 救護ボランティア報告書</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>公的な奨学金及び高等教育の就学支援制度を中心に経済的な支援を行っている。貸与奨学金は全学生の約60%が利用し、高等教育の就学支援制度は約20%が利用している。今後も円滑に支援ができるよう担当者だけでなく、教職員全体で対応できるような体制を構築していく。 学生寮に関しては提携寮を設置し、遠方からの就学生・保護者に対し就学不安の低減に努めている。 課外活動は今後も感染対策は継続しつつも活動をさらに広げ、部活動やボランティア活動を通し、学年、学科、学校の垣根を超えた交流を深めていく。</p>	<p>全学生の約60%が奨学金を利用している。 全学生の約20%が高等教育の就学支援新制度を利用している。</p>

最終更新日付	令和6年1月12日	記載責任者	柿木 邦友
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生の学習面や学校生活に変化や問題があれば、学生本人だけでなく保護者とも状況を共有し、協力して解決していく。	<p>学生個人連絡票と連絡網を毎年作成・更新し、平時だけでなく緊急時もすぐに保護者と連絡が取れるよう整備し、運用している。</p> <p>各定期試験後には、成績等に依拠して保護者を含めた三者面談を実施し、学習面や学校生活の早期改善に取り組んでいる。さらに、出席状況などに問題がある場合は、日頃から保護者と連絡を取り、状況を共有している。</p>	今年度は、コロナ禍が収束したことで保護者の方々も来校しやすくなり、学習状況や学校生活の情報を共有しやすくなった。来校が困難な場合には、昨年同様に Zoom などのオンラインツールや書面を利用して情報を共有している。ただし、学生から保護者への状況報告がされていないケースもあるため、今後も密に保護者とコミュニケーションを取り、必要な情報が確実に共有されるよう取り組んでいく。また、学生だけでなく保護者も気軽に相談できる環境を整えていく。	学生個人連絡票 学生連絡網 学生面談記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の学習状況や学校生活の状況に問題があれば保護者に現状を報告、確認しながら、問題の早期解決に取り組んでいる。今年度はコロナ禍も収束したことで、より密に保護者と連携を図ることが可能となった。</p> <p>今後も引き続き保護者とのコミュニケーションを取り、学生が安心して学校生活をおくることができる環境を整備していく。</p>	特になし。

最終更新日付	令和6年1月10日	記載責任者	岩瀬 惇平
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<p>校友会を組織し、卒業生と教職員・在校生の連携が充実するように環境を整備している。</p> <p>求人情報の交換やキャリアアップの支援が実施できるようにしている。</p>	<p>5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことから、11月に創立25周年記念パーティーを開催した。313名の卒業生が参加した。全国各地で活躍する卒業生の学科を越えた、交流の場となった。また、在校生も参加していたことから、在校生と卒業生の繋がりを作る機会ともなった。</p>	<p>次年度は、コロナ禍前に実施していた学内での年2回の校友会を開催し、これまで同様にキャリアアップ支援や就職相談会を実施することによって、支援の教科に努める必要がある。</p>	本校ホームページ
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<p>校友会と連携しながら、各団体より外部講師を招聘し、卒業生に対し、技術講習や勉強会を実施している。</p>	<p>卒業式を終えた学生に対し、卒業後の(高度)専門士として、職業人としての講義を予定している。</p> <p>また、社会人接遇フォローアップセミナーを予定している。</p>	<p>本年度は、卒業後海外で活躍する鍼灸師による在校生への講演が実施されたが、今後は卒業生も交えた勉強会を検討していく。</p> <p>現在は学科毎の活動が多く、今後は全学科での特色を生かした卒業生への再教育に取り組んでいく。</p>	学校案内パンフレット 本校ホームページ

<p>5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>学習時間及び学習環境の整備、学習に関する個別フォローが求められる。</p> <p>また、働きながら学ぶ学生にとって、新型コロナウイルス感染症が5類移行後も集団生活となる学内での感染対策は重要事項となる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類移行を踏まえ、共同学習室、図書館の利用制限の解除、休日の施設開放により、時間を気にすることなく学習する環境を整えた。同時に、学内での感染対策（換気や消毒）は継続し、安全な環境を提供するよう取り組んだ。</p> <p>また、校内セミナーをコロナ禍前に戻した状態で開催し、意識の高い社会人に対して、学ぶ機会を整えた。</p>	<p>校内セミナーが再開できたことにより、学習意欲の高い社会人にとって、良い環境が整えられている。今後は社会人学生が望むセミナーについてアンケート調査を行うなど、学生のニーズに応じた対応も検討していく。</p>	<p>学校案内パンフレット 本校ホームページ 学生募集要項 セミナー予定表</p>
--	--	--	---	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度は創立25周年記念パーティーを開催し、卒業生と教職員・在校生の校友の場となった。コロナ禍前の基調講演は実施できていないため、次年度に実施できるよう計画する。</p> <p>また、これまで同様に社会人が安心して学びやすい環境を整えていく。</p>	<p>少子化の進む中で、今後も社会人学生の確保が予測される。社会人学生のニーズの把握とともに、よりよい学習環境、教育が維持できるよう整備していく必要がある。</p> <p>また、卒業生への支援や情報収集ができるよう更なる整備をしていく必要がある。</p>

最終更新日付	令和 6年 1月 12日	記載責任者	大森 幸江
--------	--------------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設、設備については、設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備し定期的に点検している。また、令和6年度の診療放射線科定員増に伴い、必要となる設備・備品を整備した。</p> <p>学外実習については、臨床実習指導者会議を開催して到達目標等を実習先と共有し、教育課程に沿って体系的に学外臨床実習を実施した。感染症対策を引き続き施し、指導者や学生との実習中のオンライン面談等、コロナ禍で得たツールは活かしていく。さらに、感染症対策を取りながら、中断していた海外研修を再開した。</p> <p>防災については、消防計画に従い施設・設備検査と防災訓練を実施するとともに、火災発生時のマニュアルを整備している。避難経路や消防設備の改善点が見つかったので、より高い防災管理を目指し、消防計画を見直す。</p> <p>安全管理については、学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。情報共有アプリを活用して、安全管理の情報を発信する。</p>	<p>共同学習室や図書館内のラーニングコモンズ、複数の多目的室を備え、グループ学習等を推進する環境を整えている。マルチメディア室のパソコンは、利便性を考慮してノート型に刷新した。また、複数のサーバーを一元化することにより、学生用のデータ容量の最適化を図っていく。</p> <p>学外実習は、学内実習等と組み合わせて効果的かつ効率的な実習になるよう工夫している。また、コロナ禍で培われた感染症対策を継続することも、医療者の自覚を涵養する職業教育となっている。海外研修は、異文化に触れ、他国の医療を肌で感じることで改めて自国を理解する良い機会となっている。</p> <p>緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、情報共有アプリやメール、インターネットを活用している。</p> <p>インフルエンザワクチンの早期接種の実施など、現在の感染状況に即した安全衛生管理を行っている。</p>

最終更新日付

令和6年2月9日

記載責任者

藤瀬 正

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	専修学校設置基準及び養成施設指定規則等を満たす施設・設備・教育用具等を整備する。教育課程上で必要となる施設・設備・教育用具等を備える。	方針に則り施設・設備・教育用具等を整備しており定期的に点検し、次年度教育内容会議にて見直しを行っている。 診療放射線科定員増に伴い、設備・備品を整備した。	業界の動向や教育課程の改正に伴い、超音波検査診断装置や採血シミュレータの導入を進める。	校舎各室の用途・面積一覧表 機械器具・標本・模型の目録 教育用機器備品チェック表 次年度教育内容会議資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備し定期的に点検している。 令和6年度の診療放射線科定員増に伴い、必要となる設備・備品を整備した。	共同学習室や図書館内のラーニングコモンズ、複数の多目的室を備え、グループ学習等を推進する環境を整えている。 マルチメディア室のパソコンは、利便性を考慮してノート型に刷新した。 また、複数のサーバーを一元化することにより、学生用のデータ容量の最適化を図っていく。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	西野 達也
--------	-----------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	教育課程に沿って、学外の臨床実習施設と連携し、職業教育を体系的に行う。 グローバルな視点を育み見分を広げるために海外研修を実施する。	臨床実習指導者会議を開催して到達目標や実習方法等の認識を共有し、教育課程に沿って体系的に学外実習を実施した。 コロナ禍で中断していた海外研修を再開した。	学外実習や海外研修において、必要な感染症対策は引き続き施す必要がある。 学外実習中のオンライン面談等、コロナ禍で得たツールは今後も活かしていく。	シラバス 臨床実習マニュアル 実習指導者会議議事録 学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
臨床実習指導者会議を開催して到達目標等を共有し、教育課程に沿って体系的に学外臨床実習を実施した。感染症対策を引き続き施し、指導者や学生との実習中のオンライン面談等、コロナ禍で得たツールは活かしていく。 感染症対策を取りながら、コロナ禍で中断していた海外研修を再開した。	学外実習は、学内実習等と組み合わせると効果的かつ効率的な実習になるよう工夫している。また、コロナ禍で培われた感染症対策を継続することも、医療者の自覚を涵養する職業教育となっている。 海外研修先にて異文化に触れ、他国の医療を肌で感じることで改めて自国を理解する良い機会となっている。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	仲濱 毅
--------	-----------	-------	------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<p>消防計画を定め、法令に従った施設・設備の検査や防災訓練を行う。</p> <p>教職員と学生が災害時に迅速な行動をとれるようにする。</p>	<p>消防計画に従い、検査と訓練を実施しており、火災発生時のマニュアルを整備している。</p> <p>新学科設置に伴い組織を再編し、耐用期限の近い消防設備を交換した。</p>	<p>総合訓練の実施により、新校舎、新学科に起因する避難経路や消防設備の改善点が見つかった。より高い防災管理を目指し、消防計画を見直す。</p>	<p>消防計画</p> <p>消防用設備等点検結果報告書</p> <p>総合訓練任務分担表</p> <p>総合訓練実施報告書</p> <p>火災報知器フローチャート</p> <p>学科連絡網</p> <p>学生連絡票</p>
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<p>学校生活で起きうる危険や事故等に関するリスク管理を行う。</p> <p>教職員と学生が緊急時に人身の安全を第一とした適切な対応をとれるようにする。</p>	<p>学生・学校向けの保険に加入し、リスクに備えている。</p> <p>怪我人・病人対応マニュアル等を整備して、教職員と学生に発信し、安全管理に努めている。</p>	<p>安全管理に関する福岡県等からの情報提供や、新しい情報の更新が増えているので、情報共有アプリを活用して、学生や教職員へ最新情報を発信する。</p>	<p>学生生徒災害傷害保険加入証</p> <p>学校賠償責任保険加入証</p> <p>医療分野学生生徒賠償責任保険加入証</p> <p>怪我人・病人対応マニュアル</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>消防計画に従い施設・設備検査と防災訓練を実施するとともに、火災発生時のマニュアルを整備している。避難経路や消防設備の改善点が見つかったので、より高い防災管理を目指し、消防計画を見直す。</p> <p>学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。情報共有アプリを活用して、安全管理の情報を発信する。</p>	<p>緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、情報共有アプリやメール、インターネットを活用している。</p> <p>インフルエンザワクチンの早期接種の実施など、現在の感染状況に即した安全衛生管理を行っている。</p>

最終更新日付

令和6年1月19日

記載責任者

林 賢一

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>従来行ってきた高校訪問、ホームページ、SNS、オープンキャンパスを通しての情報発信に加え、今年度は、進学ガイダンスやオンラインの説明会の実施回数を増加した。本校の教育活動方針や各医療職種の特徴、入試情報等を直接伝える機会を増やして、適切な情報に努めている。</p> <p>入学試験については、Web 出願手続き内容の改善、オンライン入試（AO）対象学科への看護科の追加、熊本・宮崎・沖縄にて県外入試を実施することで、受験生の利便性向上に努めた。</p> <p>入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関を、本校独自の学事システム（CampusMagic）を用いて分析することで、授業の改善や退学率の低減等に活用している。</p> <p>令和 5 年 4 月新設の歯科衛生科を含む全 6 学科の学納金は、教育内容にふさわしい適切な水準に定められていると考えており、次年度もこれを据え置く。今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加、並びに教材費等の価格上昇により、学納金の見直しを行う可能性があるが、その際には受験希望者に対して理由を明確に説明する。</p>	<p>卒業までに納付が必要となる学納金及び年間諸経費について、学生募集要項に明確に記載している。</p>

最終更新日付	令和 6 年 1 月 24 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	-----------------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<p>本校の教育活動や各医療職種の特徴を高等学校等に情報提供する方針である。</p> <p>それによって、医療職種に関する職業理解を深め、将来の進路選択やキャリアビジョン形成の一助となるよう、継続的に情報提供を行う。</p>	<p>受験対象者と直接接触できる進学ガイダンスに積極的に参加した。その際、個々人の質問に適切に応えるために、参照資料を活用した。</p> <p>また、インターネットを利用した情報発信手段として、オンラインによる学校説明会・入試説明会を随時行っている。オンラインによる説明会では一人一人個別の質問に対応し、本校及び各医療職種の特徴や入試情報など各種資料を用いて情報を提供している。</p>	<p>オープンキャンパス以外で高校生と直接接触する機会が少ない為、進学ガイダンスへの参加回数を増やし、一人でも多くの受験対象者に接触できるよう努める。</p> <p>また、ホームページやSNSを通じた情報発信の強化、各コンテンツの一層の拡充を図る必要がある。特にホームページは受験生が必要とする情報を取得しやすいように修正を加える。</p> <p>オンラインによる説明会の内容をブラッシュアップした上で今後も継続的に実施し、広く情報を提供する。</p> <p>対面でオープンキャンパスを行う場合は受験生のニーズに応じた情報を直接提供する。</p>	<p>学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット 医療資格テキストブック 国家試験受験後の感想 国家試験合格速報 オープンキャンパス案内チラシ 県外入試告知チラシ オンライン入試 (A0) 告知チラシ 本校ホームページ SNS (X、Instagram、LINE、Facebook、YouTube) 高校訪問報告書 オープンキャンパス来場者アンケート</p>

<p>7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか</p>	<p>専修学校各種学校協会の指針に沿うとともに高等学校の理解を得て、適切に行う方針である。また、募集活動時に発信する内容は、理解しやすく明瞭なものであるように努める。</p> <p>Web 出願手続きの利便性の向上を図り、遠隔地居住者に対する負担軽減に引き続き取り組む。</p>	<p>専修学校各種学校協会の指針に沿うとともに高等学校のご理解を得て、適切に行っている。</p> <p>Web 出願手続きについては、10月上旬に行う入試について出願期間の短さが受験生の不便を招くケースがあったので、Web 出願サイト開設期間を設け、出願書類の準備を早めに来るようにしている。</p> <p>遠隔地居住者に対する負担軽減策として、理学療法科・柔道整復科・鍼灸科・歯科衛生科の4学科でオンライン入試(AO)を実施している。</p> <p>また、熊本県・宮崎県・沖縄県で各2回の県外入試を実施している。</p>	<p>Web 出願手続きについては、出願期間前に準備可能な項目を増やすことで、期間内にする手続きを軽減し、受験生の利便性向上を図る。</p> <p>遠隔地居住者に対する負担軽減策として、実施しているオンライン入試(AO)については、対象学科に新たに看護科を加えた上で、次年度も継続して行う。</p> <p>県外入試も今年度と同様、熊本県・宮崎県・沖縄県で各2回実施する予定である。</p>	<p>学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット 本校ホームページ SNS (X、Instagram、LINE、Facebook、YouTube) 福岡県専修学校各種学校協会の通達文書</p>
-------------------------------------	---	---	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>従来行ってきた高校訪問、ホームページ、SNS、オープンキャンパス等を通しての情報発信に加え、進学ガイダンスへの参加、オンラインの学校説明会・入試説明会を実施し、本校の教育活動方針や各医療職種に関する特色、入試情報等を積極的に情報発信している。</p> <p>Web 出願手続き内容の改善、オンライン入試(AO)対象学科への看護科の追加及び熊本県・宮崎県・沖縄県にて県外入試を実施することで、受験生の利便性向上に努める。</p>	<p>受験生のニーズに応じた情報を提供できるよう、進学ガイダンスへの参加、ホームページやSNSによる情報発信をより一層強化する。</p> <p>また、オンライン学校説明会・入試説明会は、内容をブラッシュアップした上で今後も継続的に実施する。</p>

最終更新日付	令和6年1月18日	記載責任者	館原 宗幸
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<p>入学試験委員による入学試験委員会を開催し、入学試験に関する規程を定め、学生募集要項に選考方法等を明記し適切に運用する。</p> <p>受験者の利便性を考慮し、学生募集要項は紙面及びホームページ上にも掲載する。</p> <p>変更・追加等がある場合は、これを速やかに告知する。</p>	<p>学生募集要項に、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーを明記している。</p> <p>選考においては、アドミッション・ポリシーをもとに、学習意欲、協調性、コミュニケーションをとるに足るだけの基礎学力を有するかどうか等を総合的に評価し、判断している。</p> <p>また、入試日程を増加することで、より公平な選考を受けられるよう配慮した。</p>	<p>国による高大接続改革により、令和4年度大学入学者選抜要項には、(1) 基礎的・基本的な知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力 (3) 主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度、の3要素を評価することと規定されている。</p> <p>本校はこの規定を踏まえてアドミッション・ポリシー並びに試験科目を制定している。</p>	<p>学校案内パンフレット</p> <p>学生募集要項</p> <p>入学選考資料</p> <p>入学試験に関する規定</p> <p>本校ホームページ</p>
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<p>入学選考に関する情報や実績は正確に把握・記録し、適切に管理する。</p> <p>学生個人ファイルに保管されている入学願書等の情報を活用することで、資格取得率や就職率の向上、退学者数の低減につなげる。</p>	<p>個人情報に関わる内容であるので、その取扱いについては専門部署を設け、担当者が適切に管理している。</p> <p>学生個人ファイルの情報は、在学中の面談等において、学生の現状および既往を把握するために活用している。</p>	<p>入学選考に関する実績や、在学時の成績などの膨大なデータの相関を、新たな学事システム(キャンパスマジック)を導入することでさらに詳細に分析し、授業の改善や退学率の低減等に活用している。</p>	<p>受験者数の推移表</p> <p>入学選考資料</p> <p>学生個人ファイル</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>入学試験は、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーをもとに総合的に評価し、合否判定会議で公正に判断している。</p> <p>入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関を、本校独自の学事システム(キャンパスマジック)を用いてさらに詳細に分析することで授業の改善や退学率の低減等に活用している。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	令和6年1月12日	記載責任者	佐藤 豪介
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	学納金は教育内容にふさわしい、適切な水準に定めることを方針とする。 年間諸経費を明記して、入学者が卒業までに必要な経費をすべて明示する。	令和5年4月新設の歯科衛生科を含む全6学科ともに、教育内容にふさわしい適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。	今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加、また教材費及び実習衣・実習用具費等の価格上昇により、経費が増加する可能性がある。 その際には、適正な範囲内で学納金の見直しを行い、受験希望者に対してその理由を明確に説明する。	学生募集要項 本校ホームページ
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	入学辞退者に対する授業料等の取扱いは、平成18年度文部科学省通知の趣旨に沿って適正に対応している。	入学辞退者に対する授業料等の返戻取扱いについては、学生募集要項に明記し、入学辞退者に対して適正に対応している。	電話やオープンキャンパス等で学納金返戻に関する問い合わせがあった場合は、学生募集要項を用いて、当該事項に関する説明を十分に行うことにより、受験生や保護者に対して取扱いに関する周知を図る。	学生募集要項 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
令和5年4月新設の歯科衛生科を含む全6学科の学納金は、教育内容にふさわしい適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。 今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加、また教材費及び実習衣・実習用具費等の価格上昇により、学納金の見直しを行う可能性があるが、その際には受験希望者に対して理由を明確に説明する。	卒業までに納付が必要となる学納金及び年間諸経費について、学生募集要項に明確に記載している。

最終更新日付	令和6年1月17日	記載責任者	諸岡 大輔
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中長期的な財務基盤を安定させるため、入学者を安定して確保し、退学率の低減を図る事が重要である。</p> <p>学科や定員数の改組を適宜行い、入学定員の充足に努めている。支出面では、教育活動の見直しを常に行いながら、適切な出費に努めている。</p> <p>財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、良好であった。</p> <p>私立学校法に基づき、事業報告書（計算書類の経年比較表を含む）、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。</p>	<p>令和6年度から診療放射線科入学定員を50名から80名に増員し、中期予算の見直しを行った。</p>

最終更新日付

令和6年1月18日

記載責任者

滝沢 哲也

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な財務基盤を安定させるため、入学者の安定確保、並びに退学率の低減が重要である。学科や定員数の改組を適宜行い、入学定員の充足を図る。支出面では、教育活動の見直しを常に行いながら、適切な出費に努める。	令和6年度からは、応募が多い診療放射線科の定員を50名から80名に増員する。	少子化が進行する中、入学生の確保は年々難しくなっている。高校生の進路選択の時期が早まってきているので、本校募集活動も早めていく必要がある。新設した歯科衛生科の認知度を高めていくことも課題である。	過去3年間の計算書類 令和5年度予算 令和5年度事業計画書 収支予算及び向こう二年間の財政計画 学校案内パンフレット 本校ホームページ 令和6年度学生募集要項
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	決算後、財務・経営状況比率の全国平均と比較して、財務分析を実施する。	財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、良好である。	財務分析結果を学内に公表し、経営状況実態についても多くの教職員が関心を持つようにすることが課題になっている。	過去3年間の計算書類 令和5年度度予算 財務比率比較表 5ヵ年連続財務比較表 令和5年度事業計画書 令和6年度学生募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中長期的な財務基盤を安定させるため、入学者を安定して確保し、退学者数の低減を図る事が重要である。学科や定員数の改組を適宜行い、入学定員の充足を図る。支出面では、教育活動の見直しを常に行いながら、適切な出費に努める。</p> <p>財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、良好である。</p>	<p>令和6年度からは、応募が多い診療放射線科定員を50名から80名に増員する。</p>

最終更新日付

令和6年1月11日

記載責任者

滝沢 裕子

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標の達成に結び付く単年度予算・計画及び中期予算・計画を策定する。	予算及び計画は、各科・各校務分掌の審議を経て、運営会議において予算の方針を策定する。その後、評議員会での検討を経て、理事会で決定する。	令和6年度から診療放射線科入学定員を50名から80名に増員し、中期予算の見直しを行う。	令和5年度予算書 収支予算及び向こう二年間の財政計画 理事会議事録 評議員会議事録 令和5年度事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づき、適正な執行管理に努める。予算と決算の対比表を、理事会・評議員会に報告する。	理事会及び評議員会に予算と決算の対比表を提出し、適正な執行管理に努めている。 学内ネットワークを活用した決裁システムの運用を開始し、適切な執行管理に努めている。	電子帳簿保存法の開始に伴い、会計システムと予算管理システムの連携並びにデジタル化が求められている。	過去3年間の損益計算書 令和5年度予算書 理事会議事録 評議員会議事録 令和5年度事業計画書 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>予算及び計画は、各科・各校務分掌の審議を経て、運営会議において予算の方針を策定する。その後、評議員会での検討を経て、理事会で決定する。理事会及び評議員会に予算と決算の対比表を提出し、適正な執行管理を行っている。</p> <p>学内ネットワークを活用した決裁システムの運用を開始し、適切な執行管理に努めている。</p>	<p>令和6年度から診療放射線科入学定員を50名から80名に増員し、中期予算の見直しを行う。</p>

最終更新日付

令和6年1月11日

記載責任者

滝沢 裕子

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	私立学校法及び寄附行為に基づき、監事が学校業務並びに財産の状況について監査を行う。	理事会及び評議員会に監事2名が出席し、理事および評議員の学校執行および財産の状況を監査している。 監事のうち1名は、毎月行われる教職員会議及び運営会議に出席して、法人運営の状況を直接確認している。	私立学校法の一部改正に伴い、寄附行為の大幅な改定変更作業を来年度に進めることが課題である。	寄附行為 理事会議事録 評議員会議事録 監査報告書 教職員会議議事録 運営会議議事録 私立学校法改正案

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づき、監事は法人の業務並びに財産の状況について監査を行う。	監事のうち1名は、毎月行われる教職員会議及び運営会議に出席して、法人運営の状況を直接確認している。

最終更新日付	令和6年1月11日	記載責任者	藤瀬 幸子
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づき、ホームページに財務情報を公開する。	事業報告書(計算書類の経年比較表を含む)、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。	財務情報を適切に公開し、社会から評価を受けることにより、自主的・自律的な質の向上に努めていく。	本校ホームページ 計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録) 事業報告書 監査報告書 情報公開規程 シラバス 財務比率比較表

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
私立学校法に基づき、事業報告書(計算書類の経年比較表を含む)、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。	事業報告書には、計算書類の経年比較表を掲載し、財務状況の変化がわかりやすいように努めている。

最終更新日付	令和6年1月11日	記載責任者	藤瀬 幸子
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を実行できるよう努めている。</p> <p>教職員に対しては、教職員会議において法令の遵守について周知徹底を図っている。新人、中途採用者を問わず、入職時にコンプライアンス研修を実施している。</p> <p>個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備して、情報を取り扱う権限を明確にしている。コンピュータウイルスによる個人情報の漏洩被害を防止する対策として、電子メール等への警戒、OS等の脆弱性の改善、ウイルス対策ソフトの適切な運用等を実施している。</p> <p>自己点検・自己評価に関しては、文部科学省ガイドライン準拠における評価報告書にまとめ、ホームページに公表している。同時に、学校評価に関しても、学校評価実施規程に基づき、学校評価委員会を設置して学校評価を実施し、評価結果をホームページに公表している。</p> <p>その他、職業実践専門課程基本情報、第三者評価、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等をホームページに掲載し、本校の教育内容を広く関係者に周知している。</p> <p>教育内容の公開を進めることが、教職員の意識を高めることにつながっている。</p>	<p>ホームページに「情報の公表」のページを設けて、関係者が容易に必要な情報にアクセスできるように努めている。</p>

最終更新日付	令和 6 年 1 月 24 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	-----------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<p>関係法令及び設置基準を遵守することが重要であると考ええる。また、コンプライアンスを確立し適切な学校運営を実行する。</p> <p>私立学校法や電子帳簿保存法の改正に対応する。</p>	<p>関係法令や学校設置基準を遵守し、適切な学校運営が行われている。関係法令・諸規則を整備し、教職員会議や学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。状況については運営会議等で報告、学内で共有している。</p> <p>私立学校法の改正の為、理事と評議員の兼任を解消。</p> <p>電子帳簿保存法の改正に対応するため、金銭に関わる電子データを保存している。</p>	<p>コロナ禍導入された ICT 環境で効果的な教育ができるよう環境を整備しているが、ICT 機器の運用におけるコンプライアンスの確立、ICT 機器使用におけるリスクの周知が必要である。</p> <p>教職員間で電子帳簿保存法の改正について、周知徹底が課題である。</p>	<p>許可・届出書類 学則 学生要覧 運営会議議事録 教職員会議議事録 入職オリエンテーション資料 FD・SD 研修会抄録 寄付行為</p>

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を実行する。また、教職員に対しては、教職員会議において周知徹底図り指導を行う。学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。さらに、入職時にはコンプライアンスに関する資料を用いて指導している。</p>	<p>ICT 機器を活用し、効果的な教育ができるよう研修等を実施する必要がある。さらに ICT 機器の使用によるリスクの周知を行い、運用のルール策定を行う必要がある。</p>

最終更新日付

令和 6 年 1 月 15 日

記載責任者

大神 啓裕

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<p>個人の権利・利益の保護を図るために個人情報保護に関する法令に基づく内部規程を定め漏えい、滅失及び毀損等の防止と安全管理のために必要かつ適正な措置を講じる。</p> <p>個人情報の取得や利用に当たっては、利用目的を特定しその範囲内で利用する。また、利用目的を通知又は公表する。</p>	<p>個人情報保護に関する内部規程に基づき必要かつ適切に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し情報を取り扱う権限を明確にしている。また、情報システムのセキュリティ対策を実施している。</p>	<p>個人情報保護に関する内部規程を適切に運用するために個人情報の取扱いに関する留意事項についての周知を行う。</p> <p>個人の電子媒体の取り扱いについて規約を定める。</p> <p>情報システムのクラウドサービスへの移行に伴い個人情報の安全な運用管理を実施する。</p>	<p>個人情報保護規程</p> <p>コンピューター使用ルール</p> <p>ウイルス感染等の防止について</p> <p>学校関係者評価における守秘義務に関する規程</p> <p>臨床実習要綱</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報保護法に基づき、適正かつ的確に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し、情報を取り扱う権限を明確にしている。</p>	<p>個人データが記録されていた機器や電子媒体等の廃棄は、安全管理のための措置に関する内容を委託契約において明確化する。</p> <p>コンピュータウイルスによる個人情報の漏洩被害を防止する対策として、電子メール等への警戒、OS等の脆弱性の改善、ウイルス対策ソフトの適切な運用等を実施する。</p>

最終更新日付	令和6年1月17日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------	-------	--------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	学校評価実施規程に沿って自己評価を行い、教職員全員が参加して自己点検を行うことを方針としている。	自己評価を学校運営に活かすため、自己点検・自己評価委員会を設置し、全教職員参加型で自己点検を実施している。	自己点検・自己評価の結果について教職員の周知を高め、各学科や校務分掌の運営に活かしていく。	学則 自己評価報告書 学校関係者評価報告書 学校評価実施規程 学校評価委員会議事録
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	関係法令に基づき自己点検結果を公表する。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、本校ホームページに公表している。	関係する外部団体等に対して、ホームページに公開していることを積極的に紹介する必要がある。	本校ホームページ 自己評価報告書 学校関係者評価報告書 高等教育機関の修学支援新制度確認申請書
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、学校評価委員会を設置し学校評価を実施する。	学校関係者評価実施規程に基づき、学校関係者評価委員会を設置し、学校評価を実施し評価結果を学校運営に活かしている。	学校関係者評価委員会では教育内容や教育活動、学校運営等について貴重な提言が行われている。その内容について教職員の理解を深める必要がある。	学校評価実施規程 学校評価委員会議事録 学校関係者評価報告書 本校ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき実施した結果を、学校ホームページ等を利用し広く社会に公表していく。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、学校ホームページを利用して公表している。	自己評価結果と同様に、学校関係者評価結果について情報発信している事を、外部関係者に積極的に紹介する必要がある。	学校評価実施規程 学校関係者評価報告書 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省ガイドライン準拠における評価報告書にまとめ、学校ホームページを利用して公表している。また、学校評価実施規程に基づき、学校評価委員会を設置して学校評価を実施し、評価結果を学校運営に活かしている。	自己点検・自己評価及び学校関係者評価について、教職員の周知を高めるとともに、外部に対しても学校ホームページで公開していることを積極的に紹介していく必要がある。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	仲濱 毅
--------	-----------	-------	------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育活動の質の向上を目指すとともに情報公開の義務を果たすため、在校生、卒業生、保護者及び学校関係者に対して、積極的に教育情報の提供を行う。	職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる機関要件の更新確認申請書等を本校ホームページに掲載し、教育情報の公表を行っている。	情報公開するにあたり、情報資産の機密性・完全性の確保を行い、常に正常な運用が必要である。特に個人情報等の厳格な取り扱いが必要である。	学校案内パンフレット 本校ホームページ(職業実践専門課程基本情報様式 4 自己点検・自己評価報告書、) スマートフォン用本校ホームページ

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育機関の修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等を本校のホームページに掲載し、本校の教育内容を広く関係者に周知している。教育内容の公開を進めることが、教職員の意識を高めることにつながっている。	個人情報に関わる情報の公開については、本人に利用の用途とその範囲を文書化し伝達する必要がある。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の特色をいかし、近隣住民へ向けた健康に関する出前講義や、県内高等学校の体育祭の救護活動を実施した。また、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設（グラウンド）の提供、各種団体へ学内施設の貸出を行っている。</p> <p>感染症の影響により中止していた海外研修（台湾）は、今年度より再開した。また国際交流については、世界水泳ボランティア等にも参加し、異文化理解、国際交流の場を確保できた。</p> <p>ボランティア活動については、各種イベントが再開し、多くのボランティア活動への参加が可能となった。今年度は先述の世界水泳や、福岡マラソンの救護活動に加え、高校野球や民間のスポーツイベントなど多岐にわたるボランティア活動に参加した。</p> <p>本校に依頼があった際は、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、情報発信を積極的に行っている。</p>	<p>令和5年度より歯科衛生科が加わったことから、さらに社会貢献・地域貢献に繋げていく。</p> <p>令和6年度の海外研修はハワイ研修も再開する予定。</p>

最終更新日付	令和6年2月1日	記載責任者	田中 七郎
--------	----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	種々の分野の団体に施設・設備等を開放し、地域を中心とした社会貢献及び連携を深めることを目指す。	本校の特色をいかし、近隣住民へ向けた健康に関する出前講義や、県内高等学校の体育祭の救護活動を実施した。 また、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設（グラウンド）の提供、各種団体へ学内施設の貸出を行っている。 本校の教育資源が社会貢献に繋がるよう努めている。	出前講義は本校ホームページ等より随時受付をしており、引き続き本校施設や人材をいかした社会貢献に努める。 令和5年度より歯科衛生科が新設され、提供できる教育資源の幅も広がることから、本校の認知度向上に努め、さらに地域・社会貢献を行っていく。	学校ホームページ 施設利用願 施設利用規程 出前講義申込書 各種決裁書
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	グローバル化に伴い、海外の教育機関等で研修を行い、学生が国際的な感覚を身につけられるよう取り組む。	感染症の影響により中止していた海外研修（台湾）を今年度より再開した。また世界水泳ボランティア等にも参加し、異文化理解、国際交流の場を確保できた。	現在の海外研修は最上級生が対象のため、下級生の国際交流の機会の確保が望まれる。 国際交流が想定される各種活動の情報をキャッチし、随時学生へ案内を行っていく。	令和5年度事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の特色をいかし、近隣住民へ向けた健康に関する出前講義や、県内高等学校の体育祭の救護活動を実施した。また、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設（グラウンド）の提供、各種団体へ学内施設の貸出を行っている。</p> <p>感染症の影響により中止していた海外研修（台湾）は、今年度より再開した。また世界水泳ボランティア等にも参加し、異文化理解、国際交流の場を確保できた。</p>	令和5年度より歯科衛生科が加わったことから、さらに社会貢献・地域貢献に繋げていく。

最終更新日付

令和6年1月19日

記載責任者

当真 裕樹

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	各種ボランティア活動に学生が取り組むことにより、社会性を育み、医療従事者としての自覚を促す。また、社会貢献の重要性を体験させるため、積極的に案内を行う。	これまでの実績から、スポーツ・救護系の依頼が多く、今年度は世界水泳や福岡マラソンなどのボランティア活動に参加した。 また、ボランティア依頼があった際には、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、情報発信を積極的に行った。	ボランティアの依頼内容から、参加学生に学科の偏りがみられた。 学生の社会的活動の機会を広げるためにも、幅広く案内し積極的な参加を促す。	各種ボランティア募集資料 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種イベントの再開が本格化し、多くのボランティア活動への参加が可能となった。今年度は福岡市と連携した世界水泳・福岡マラソンの救護活動に加え、高校野球や民間のスポーツイベントなど多くのボランティア活動に参加した。 依頼があった際には、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、情報発信を積極的に行った。	本校は医療・スポーツ関連に従事する学生が多いため、今後の社会活動や学校生活における人間形成を鑑みて、より多くのボランティア情報を発信する。

最終更新日付	令和6年1月19日	記載責任者	林 賢一
--------	-----------	-------	------